

令和7年度 第3回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

1 日 時 令和7年11月19日（水）18：30～19：50

2 会 場 帯広市役所 10階 第5A会議室

3 出席委員 千葉 佳貴、大宮 秀夫、山田 知史、伊東 健太郎、斎藤 準、
矢野 充、鳴海 亮、今野 敏幸、藤森 元恵、岸田 智子、野村 勇、
青田 善弘、久保田 博己、三浦 真希子、深津 真悠、佐藤 康則
(以上16名、敬称略)

4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化課課長 米通 朋樹、生涯学習文化課課長補佐 金須 健裕、生涯学習文化課生涯学習係主任 加藤 主夫、
生涯学習文化課生涯学習係主任補 濱 しおり
(以上5名)

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 村木 章純
- (3) 議事
 - ①協議事項 今期の調査・研究について
 - ②報告事項 会議出席報告
- (4) 閉会

6 議事要旨

- (1) 協議事項 今期の調査・研究について
 - ① 概要
 - ・本会議では今期の調査・研究テーマを決めるにあたってのグループワークを実施した。次回会議ではグループワークでの取り組みを基にして委員長、副委員長、事務局でテーマ案を作成し委員に提案後、調査・研究テーマを決定する。
 - ② グループワークの手法
 - ・委員を3つのグループに分けて実施。
 - ・事務局で用意した社会教育に関連する3つのキーワード（①若者の地域活動②社会教育施設の活用 ③団体の担い手）に対して「興味のあること」「思っていること」「調べてみたいこと」等、キーワードから連想することを各委員が付箋に記入し、模造紙に貼り付けながら意見交換を行った。
 - ・最後に各グループで出た話題を全体に向けて発表し、委員同士で共有した。

③ 各グループの発表

○グループ1

- ・キーワード①の「若者の地域活動」について、若者は地域でどんな活動が行われているのかやどんなことに興味を持てるか等、わからないことがあると思うので、情報発信をしていく必要があるのではないか。そのうえで、興味を持つてもらうこと、参加・活動しやすい環境づくりをすることが大事ではないか。
- ・学校単位でみると若者はたくさんいるので、「なかなか地域の活動に出づらい」という学生にまずは授業の一環として活動に参加してもらうのも良いのではないか。（大谷短期大学の授業で行っている地域創生プロジェクトのように）また、地域の大学や専門学校のサークル等と連携できると、若者も活動しやすくなるのではないか。
- ・キーワード②の「社会教育施設の活用」について、社会教育施設がどういったところかという認知もされていないのではないか。
- ・キーワード③の「団体の担い手」について、高齢化が進んで町内会の活動やゴミステーションの管理、団体運営がうまくいかないということについて、担い手を受け入れる側の気持ちも確認したらしいのではないだろうか。
- ・若者と高齢者が協働してできることを考えるのもいいのではないだろうか。例えば、高齢女性と帯広大谷短期大学の女子学生が共に暮らす「音更町ふれあい住宅」のように住居と一緒に住み、若者と高齢者がそれぞれの役割を遂行していくなど。
- ・上記のような話や意見が出て、特に①のキーワードが取り組みやすく、次いで③も連携させられるのではないかと思った。そこが固まると②のキーワードの社会教育施設の活用につながっていくのではないかとの話し合いを行った。

○グループ2

- ・意見をまとめるというよりは、それぞれの意見や思いが話し合いを進めることに連想ゲームの様にたくさん出てきたので、それをどんどん出しあっていった。
- ・特に①のキーワードに関する意見が一番多かった印象で、若者（高校生・大学生）の活動の様子がもっと知りたいという意見や、人と人をつなぐようなことがポイントだという意見等、それぞれの委員から色々なキーワードが出てきた。
- ・②のキーワードについて、最初は社会教育施設と言われてもどんな施設のことかすぐに頭に浮かばなかったが、図書館等が社会教育施設であると言われると、より利用しやすくするにはどうしたらいいか等の具体的な案が出せるようになり、グループ内の話し合いが盛り上がった。
- ・③のキーワードに関しては、人手不足やコロナ禍で一度休んだ後に活動を戻すのに苦慮するといった話や、情報を発信していく等の工夫を行うことで、いろ

んな世代がつながっていけるのではという話が出た。

- ・話し合いをしていて、それぞれの持つ何かしらのコミュニティを通して社会教育の深掘りができるのではないかというのを感じた。

○グループ3

- ・キーワード①について、中学生・高校生の持つエネルギーは高く、色々な活動をしたいと思う子どもたちはあると思う。ただ、ゼロから自分たちで考えていくのは難しいと思うので、大人がきっかけや活動の場を与える等のサポートをしていくことで子どもたちが活動していけるのではないかという話があった。
- ・最近はSNSを使ってつながっていくことが子どもたちには普通になっているので、そういったものをうまく活用しながら活動への関心を誘ったり、興味を引き出したりすることで、子どもたちも活動しやすくなるのではないかという意見や、活動に必要な金銭面のこと、活動を継続させることへのサポートの必要性といった話があった。
- ・キーワード②については、古くなっている施設を新しくして魅力を高めることができないかといった話や、宿泊ができる施設の整備といった話があった。どういった施設があり、どういった利用ができるのかを知りたいという意見もあった。
- ・キーワード③についてまでは話し合いがたどり着かなかったが、各委員から出した付箋の内容としては「ノウハウを引き継ぐ方法」や「担い手が不足しているのでどうしたらいいか」、「活動と興味がある人をマッチングする仕組みがあるといいのでは」といったものが出ていた。

④ 総括

○委員長

- ・いくつかのグループで話が出たとおり、情報はすごく大事なこと。しかし、知りたい情報がどこで手に入れられるのかがわからないというのは日々感じところであります、そういうことが課題かなと思う。また、さまざまな世代や立場、場所を超えて連携し、持続可能な活動につなげていくことが大事である。それを叶えるために何をどうつなげていけばいいのかを、社会教育委員の会議をとおして委員の皆さんと考えていきたいと思っている。

(2) 報告事項

ア. 会議出席報告

研修会への出席等について報告。

〈意見・質問なし〉

以上